



校長室だより

令和5年度

8月30日

NO. 19

2学期の子供たちの「挑戦」に、応援お願いします。

今年はスポーツの国際大会が数多く開かれ、日本のチームの活躍が、私たちの心を躍らせています。昨年度になりますが3月のWBC（ワールドベースボールクラシック）では、優勝までの軌跡に誰もが熱狂したことでしょう。また6月に行われたバレーボールネーションズリーグ2023では、日本男子の快進撃による50年ぶりの銅メダルに、歡喜しました。また夏休み中の、FIFA女子ワールドカップでのなでしこジャパンの活躍や、27日のバスケットボール男子W杯で、日本が初めて欧州を破ったニュースは、世界を駆け巡りました。時代はデジタル化が進み、現在の人の仕事の約50%がITにとって代わられるだろうと言われますが、スポーツは人でないとできないものであり、だからこそ、その努力や進歩に胸が高鳴り、心を打たれます。

考えると、結果が分からないからこそ、人は努力し、それに挑戦し、大きな成長を遂げられるのかもしれませんが。さらに、一人ではなく、仲間と協力し合ったり高め合ったりするからこそ、計算外の力を発揮できるのだと思います。またその過程や結果に、喜んだり悔しがったりすることも、人の大きな力となります。これはまさに、子供の成長も同じだと思います。結果の見えない経験や思いを経て、子供たちは成長していくのでしょ。う。

2学期には、子供たちにとって楽しみな大きな行事がたくさんあります。勉強でも、いろいろ多くのことを学びます。始業式で話をしましたが、行事や勉強も、スポーツのように、自分から目標をもって、仲間と共に「挑戦」する中で、大きく飛躍できます。スポーツでは試合中、人に指示されるのを待っていたり、どうしたらよいか迷っていたりしては、チャンスは来ないし、前に進むことはできません。自分自身で考えて行動しなければなりません。そして、同じ目標やゴールに向かって挑戦する「仲間」がいるからこそ、頑張れるし、楽しさも喜びも2倍、3倍になります。2学期は、子供たちにとって、様々なことに「挑戦」できる、そんな学期にしてほしいと願います。

始業式では、児童代表の言葉で2年生の横山君と5年生の市橋君が、2学期の誓いの言葉を言ってくれました。横山君の特にがんばりたいことは「マラソン大会」と「算数の九九」でした。「一年生のお手本になれるようがんばりたい」の言葉が、とても力強かったです。5年生の市橋君は、初体験のカヌーができる山の学習、セリフが多いけれどやりがいのある学芸会、本当に今年で最後になるソフト部の大会を挙げました。「打たれても僕たちが守るからいつものように投げて」という言葉からは、仲間との団結の強さを感じました。このように2学期、一人ひとりが「挑戦」することで、きっと、みんなにとって「楽しい」思い出がいっぱいになるとともに、一人ひとりの成長が見られると楽しみにしています。保護者の皆様、学区の皆様にも、ぜひ応援していただけるようお願いいたします。